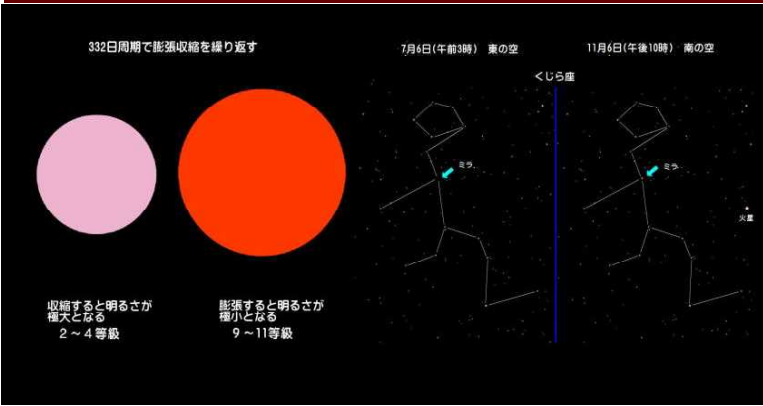


プラネ新聞

発行所 岐阜市科学館
〒500-8389
岐阜市本荘3456-41
TEL: 058-272-1333
FAX: 058-272-1303

11月大天体ショーが始まる



先月(10月6日)は火星の地球への最接近ということでも天文関連で大いに盛り上がりましたね。その

星の明るさが変わる? そんなことが...? 今火星(ミラ)はくじら座に注目!!

時、火星の光度が2ヶ月の間に1等級から2等級まで明るくなりました。今は2等級ほどとなっています。このように火星の明るさが変化しましたが、なぜ変化したかは次の通りです。惑星は自ら輝いてはいなく、太陽に照らされて明るく見えています。ですから今回の外惑星である火星は地球に近いほど明るく見え、遠く離れていくに従ってだんだんと暗くなっていきます。

ところが外惑星ではなく恒星にも明るさが変化するものがあるということです。私たちの太陽はいつも見てもその明るさはほぼ不変ですね。しかしくじら座のミラという恒星は明るさが変わっていく星の一つです。このミラは2等級の明るさから10等級の暗さまで、約332日周期で変化するというのです。この明るさ

が変わる要因は火星のように地球までの距離とは関係ないようです。一体どのような仕組みになっているのでしょうか。実はミラは収縮膨張をおこなっています。収縮すると星全体の温度が上がります。結果、明るくなる。同時に色も白っぽくなります。逆に膨張すると、星全体の温度が下がり、色は赤っぽくなります。このように星を脈動変光星と言います。今現在(11月中旬)は徐々に暗くなりつつあり、3等級の明るさとなっています。ちなみに変光星は、このほかに、暗い天体が恒星の前を横切ったときに光度が落ちる食変光星、明るい部分が一様でなく、自転によって明るく見えたり暗く見えたりする回転変光星など、いろいろあります。

今後ミラは暗くなっていきます。この時期、午後8時頃にはちょうど南天のやや東の見やすい位置にいますから、ぜひご覧ください。

「一秒ちよつと前の月」

プラネタリウム番組の紹介です。「一秒ちよつと前の月」です。歴代の有名な天文学者と共に番組を進めていくうちに、宇宙の壮大さに気づき、実感できる番組です。美しい映像と共に楽しみてください。



魚にならないうちやなキューピッド

今回の星座はうお座です。ご存じ黄道12星座の一つです。ところでこのうお座、よく見ると2匹の魚の尾ひれをひもで結んでありますね。まずはこの理由からお話ししましょう。その昔、ナイル川の辺で神様たちが宴会をしていました。その中にはビーナスとやんちゃなキューピッドという親子もいました。やがてその会も大いに盛り上がって来た頃、なんと神様達が最も恐れているテュホンが現れました。蛇の頭を100も持ち、その目からは火を噴き、足は巨大な毒蛇がとぐろを巻いたような姿です。もう神様達は恐ろしくて大騒

ぎです。蜘蛛の子を散らすようにそれぞれいろいろな生き物に変身して逃げていきました。ビーナスとキューピッドも魚に変身してナイル川に飛び込んで逃げました。この時、母親のビーナスはお互いに迷子になってはいけないと案じ、ひもで尾ひれを結んだのです。この姿に感心したゼウスはこの二人を星座にしました。さて、隣にはみずがめ座がいて、瓶からはお酒が流れています。ここで子ども達のキューピッドの本領発揮です。魚になってもこの酒を僕にも飲ませろーと口を開けて向かっていきます。しかしそれをお母さんのビーナスがまだ子どもでしよ、とひもを引っ張ってがめているように見えません。面白い星座の配置です。

